

医政発 1205 第 1 号
平成 29 年 12 月 5 日

公益財団法人日本訪問看護財団理事長 殿

厚生労働省医政局長



人生の最終段階における医療に関する意識調査について

厚生労働行政の推進につきましては、日頃より格別の御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

厚生労働省では、平成 4 年以降 5 年おき 5 回にわたって、一般国民及び医療介護従事者の人生の最終段階における医療に対する意識やその変化を把握するための調査を実施し、我が国の人生の最終段階における医療を考える際の資料として広く活用してきました。

今般、昨今の一般国民の認識及びニーズの変化、医療提供状況の変化などに鑑み、一般国民及び医療介護従事者における意識調査を実施することといたしました（調査の詳細については、別添をご参照ください）。

また、この調査で得られた結果につきましては、厚生労働省に設置している「人生の最終段階における医療の普及・啓発の在り方に関する検討会」において、わが国の人生の最終段階における医療を考える上で重要な資料として活用させていただくこととしております。

つきましては、本調査の趣旨をご理解いただき、医療介護従事者の意識を的確に把握するため、医療機関及び介護施設を經由した調査が円滑に進められるよう、貴会の御協力をいただきたく格段の御配慮をお願い申し上げます。

「平成 29 年度人生の最終段階における医療に関する意識調査」

1. 目的

平成 4 年以降 5 年おき 5 回にわたって、一般国民及び医療介護従事者の人生の最終段階における医療に対する意識やその変化を把握するための調査を実施してきた。この度、最終調査から 5 年の月日を経て、昨今の一般国民の認識及びニーズの変化、医療提供状況の変化などに鑑み、再度、一般国民、医療介護従事者における意識を調査し、その変化を把握することで、患者の意思を尊重した望ましい人生の最終段階における医療のあり方の検討に活用する。

なお、本調査の調査結果は、「人生の最終段階における医療の普及・啓発の在り方に関する検討会」において議論を踏まえ、厚生労働省ホームページ (<http://www.mhlw.go.jp>) において、公表する予定。

2. 調査対象

対象者	対象施設	抽出方法	施設数	1施設の対象数	対象者数
一般国民	—	20 歳以上の男女から層化 2 段階無作為抽出	—	—	6000
医師	病院	無作為抽出	1500	2	4500
	診療所	無作為抽出	1500	1	
看護師	病院	上記と同一施設	1500	2	6000
	診療所	上記と同一施設	1500	1	
	訪問看護ステーション	無作為抽出	500	1	
	介護老人福祉施設	介護職員用 1000 から 500 を無作為抽出	500	1	
	介護老人保健施設	介護職員用 1000 から 500 を無作為抽出	500	1	
介護職員	介護老人福祉施設	無作為抽出	1000	1	2000
	介護老人保健施設	無作為抽出	1000	1	
施設長	病院	上記と同一施設	1500	1	5000
	診療所	上記と同一施設	1500	1	
	介護老人福祉施設	上記と同一施設	1000	1	
	介護老人保健施設	上記と同一施設	1000	1	

3. 調査方法

- ・ 自記式質問紙調査で行い、調査票の送付・回収は郵送による。

4. スケジュール

- 平成 29 年度 12 月上旬～ 調査開始 (調査票発送)
- 12 月下旬～ 調査票の集計・分析
- 1 月上旬～ 検討会 (調査結果 (速報値) の報告)